

子どもたちの育成 島一体で

三宅村村長 櫻田昭正



三宅島ふるさとネットワークの皆さま、明けましておめでとうございませう。平素より三宅村及び関係者のために精力的に活動頂いていることに感謝申し上げます。

私は昨年2月、引き続き村政の舵取りという重責を担わせていただくことになりました。平成29年の新春を迎え、「島に育ち、島に生き未来につながる三宅島」心ひとつに

帰島から11年目となる2016年。「島に育ち、島に生き未来につながる三宅島」心ひとつに三宅の創造」というスローガンをかけ、島の更なる発展をリードする櫻田昭正村長が、次の世代を担う子どもたちの育成などへの方針を述べた年頭の挨拶を本紙に寄せてくださった。

三宅の創造の実現のため、その責務を果たす決意を新たにしているところです。

このような島づくりを推進していくためには、島の力となる人材が必要不可欠です。現在、中学校ではICTを更に活用するため効果的な教材や手法を取り入れ、学力向上を図るとともに情報活用能力の向上に努めております。子どもたちが知性や感性を高め道徳的心情や体力の向上を図り、人間性豊かに成長するよう学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割を担い、三宅島一体となつて島の宝の育成に取り組

んでまいりたいと考えております。

私は、その次代を担う子どもたちが人財となつた将来、胸を張って島づくりのバトンを渡すことができるよう現在山積している課題の解決に今後とも一層邁進してまいります。

皆さまにおかれましては、元氣と笑顔あふれる島づくりに一層のご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、今年一年が皆さまにとって、そして三宅島にとってより素晴らしい年になりますよう祈念申し上げて新年のご挨拶とさせていただきます。

新年あけましておめでとうございます。

昨年中は皆さまのご協力により様々な活動を行うことが出来ました。有難うございました。

2000年の三宅島噴火被害に対して、いち早く再生の姿を見せたのは、海と山と平地の回復・再生でした。特に、雄山は4割近く草木も枯れ果て、泥流により幾筋も深い溝ができました。これに対して、ボランティアの皆さんが継続して緑化活動に来島して、今は雄



実を結び始めた努力の継続を

ふるさとネット会長 佐藤就之

山の頂上も緑となりました。心より感謝を申し上げます。

ようやく帰島10年を経て旧小・中学校舎坪田体育館は、日本一のクライミング設備でオリエンティック誘致に名乗りを上げています。また三宅島に退職後住み着いたSさんが日本最大の椎の木を見つけ観光資源として活用する動きなどがあります。

長期噴火災害の復興・再生の努力を行っている櫻田村政と東京都など努力が実を結んでいます。そして「帰りたいくても帰ることが出来なかった在京者」の皆さん。高齢化などの困難に負けずにお体を大切に頑張ります。

三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
〒173-0005
東京都板橋区仲宿2-1
TEL 090-4922-0798
FAX 03-3964-4065
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

○支援者の集い(総会)
皆さまのご協力により、12月10日(土)巢鴨にて支援者の集いを行いました。第一部を総会として議案と予算・決算の議決をいただきまして、第二部では支援者の集いとして開催し、ネットの皆さま方と楽しく語りました。その様子が4面にて紹介されています。

○次号の発行は、5月1日となります。

【三宅島ふるさとネット事務局】
郵便番号：173-0005
住所：板橋区仲宿2-1
携帯：090-4922-0798
FAX：03-3964-4065
連絡先 佐藤就之

平成28年度の報告と平成29年度の方針

12月10日実施の総会で承認

12月10日に巣鴨で行われたふるさとネットの総会で、今年度の活動報告および来年度の方針、今年度の決算、来年度予算が承認され、来年度も島の復興・再生に向けた取り組みを継続できる環境が整った。

積み重ねてきた復興・再生への努力

多くの方々の協力・支援を得る中で

1、三宅島新報の発行
DTPAの皆さんの努力で、今年度は三宅島新報第61号、第62号、第63号の計3部を発行した。

2、世話人会の開催
第44回世話人会は6月4日(土)、第45回世話人会は9月3日(土)、第

46回世話人会は11月26日(土)に巣鴨のルノアールにて行われた。

3、神楽坂あおぞら市出店
5月15日(日)神楽坂のあおぞらフェスタに三宅島物産店として出店した。店では、特産品の明日葉や島のり、たけのこ等を販売した。

タートフラッグの合図によつて89台のバイクが一齐にスタートを切り、大盛況だった。

5、第17回三宅島産業祭の開催
11月19日(土)、20日(日)2日間、阿古体育館ほかにて、三宅島のさ

まざまな産業をみて・食べて・体験して楽しめる催しが開催された。「宝船」の農産物を利用した野菜の詰め放題が行われ、多くの人で大いに盛り上がった。

その他に、新たな紙面づくりのために三宅島新報でのアンケートを行いました。ご協力に感謝いたします。貴重なご意見ありがとうございました。

情報発信等の更なる充実を

在京者への支援や風化防止なども

1、「三宅島新報」等の情宣活動

「三宅島新報」発行は、神奈川県私立向上高校新聞委員会の卒業生がつくるDTPAの協力により10年間に及ぶ。17年度

も5、7、10、1月の4回に発行します。そのほか、HP等でも情報発信をします。

2、三宅島物産展
神楽坂商店街のご協力で「あおぞら市」に参加

収入の部	2016 年度予算	2016 年度決算	2017 年度予算
寄付金	700,000	380,000	650,000
活動収入	100,000	89,800	100,000
雑収入	100	234	100
前期繰越金	5,268	5,268	6,232
収入合計	805,368	475,302	756,332

支出の部	2016 年度予算	2016 年度決算	2017 年度予算
広報費	688,000	396,522	650,000
訪問活動費	1,000	0	1,000
活動費	55,000	45,598	55,000
会議費	10,000	4,030	3,000
事務備品費	5,000	2,588	5,000
通信費	30,000	16,412	30,000
渉外費	1,000	980	1,000
雑支出	15,368	2,940	11,332
小計	805,368	469,070	756,332
次期繰越金	0	6,232	0
合計	805,368	475,302	756,332

ふるさとネット16年度決算・17年度予算

してきましたが、今後は、2年に1度実施される5月の「島じまん」(竹芝栈橋)への参加を検討します。

3、世話人会、総会

9、11、3月。総会・支援者の集いは12月に開催します。

4、「ふれあいコール」全

島避難の記録創り」各被災地との交流、支援。三宅島支部の活動を発展させます。

5、「三宅島新報」配布・郵送などの活動資金を引き続き皆さまの寄付を仰ぎ三宅島噴火災害の風化を食い止める島の再生・復興、在京者支援に務めます。

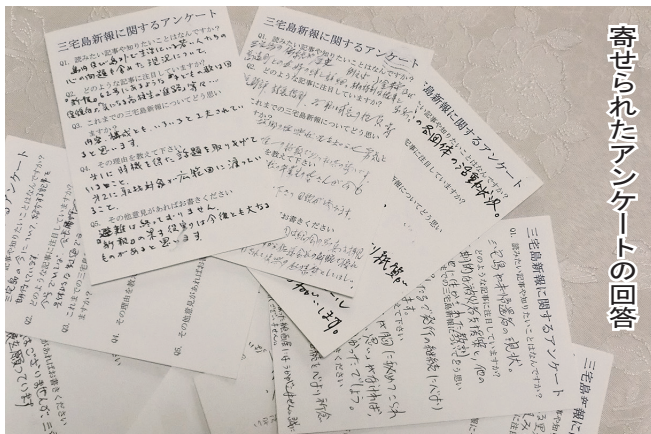


12月10日の総会で挨拶する佐藤会長

新報アンケートより

読まれる紙面今後も

ふるさとネットでは、三宅島新報に関するアンケートを実施した。厳しい意見も寄せられる中、その結果を参考に、更に読まれる紙面を目指し、改革を進めていく。



寄せられたアンケートの回答

Q1 読みたいと思う記事や知りたいことは何

「三宅島新報」に関するアンケートを読者の皆さまに、第62号（7月1日）で、ご協力をお願いしました。無作為で郵送、手配りをしている方々にハガキ各50通を新報に同封しました。11通返信、HPの「問い合わせ」でもお答えいただきました。紙面の関係で一部内容の要旨をご紹介します。

ですか？

・三宅島の伝統や歴史。例えば、小金井市、高遠町との友好の絆と詳細。村の催事と写真・三宅島の今について、紹介する記事・島内、島外で生活している若い人たちの心の問題を含めた現状・島の各団体の活動状況・未帰還者の現状・村の「ふる里納税」の取り組み現状・今後の島内の予定など

Q2 どのような記事に注目していますか？

・会長時評、村長指針、各職域長の負担

など・会長時評は説得性がある・子どもの数、高校生の進路など・長期的被災者支援策、他に生かされた教訓・復興の様子がわかるもの。他

Q3 これまでの三宅島新報についてどう思いますか？

・避難者に故郷の復興状況を知らせる勇気と希望を与えた唯一の新報であり私どもの誇りです。・上質紙、カラーとなり見やすくなった・内容、構成とも工夫されている・長年にわたる発行の継続に敬意。他

Q4 その理由を教えてください

Q5 その他の意見があればお書きください。

・各地の郷友会の総会の写真を拝見します。郷土を愛する同志として「新報」も活用して復興の起爆剤としてほしい。避難

ださい。

・何しろ向上高校の卒業生の皆さんが今も私共の為に関わって下さり目頭が滲みます。第一に時機を得た話題、第二に取材対象が広範囲・読みやすい（以前より紙質がよい）・関係者の方々が胸に秘めてこられた「三宅島への熱い思い」がなければ、ここまで長続きしなかったでしょう。他

は終わっていません。『新報』の果たす役割は今後とも大なるものがあると思います。三宅をどう人アピールしてくださいます。おねがいします。・永い発行を祈念・専門的な内容はわからない。明るいニュースを。他

そのほかに、「一方面的な勝手な意見、生活保護率（%と%）の誤報に小学生並みの厳しい意見（メールでも）注意頂きました。有難うございました。」被害者意識はなくし自分の人生を生きる事」が一通。今後とも誤字等は注意します。

島民、在京者、支援者、マスコミ関係者

などご協力を頂

き感謝いたします。

す。また過分の

お言葉も寄せら

れています。編

集制作のDTP

A・世話人・事

務局一同共に皆

さまのご期待に

そえるように努

力をしてまいり

ます。

ご応募お待ちしております。

お知らせ

島で働く保育士さん急募

「みやけ保育園」で保育士とお手伝いをしてくれる方を募集しています。みやけ保育園では、10月1日現在57名の園児と1名の一時保育児を預かっていますが、保育士（正規職員）、保育助員も不足しています。島内には、1園のみで待機児もいます。

自然豊かな三宅島で働いてみようという方は、ぜひご応募下さい。詳細は、三宅村ホームページの新着情報の三宅村職員募集に掲載されています。

電話での問い合わせは、保育士は三宅村総務課人事係 04994 (5) 0981。臨時職員は、村民生活課福祉係 04994 (5) 0904 です。臨時職員は、保育士資格なくても可です。

採用者が決まりしだい締切りますので、電話等で問い合わせください。もちろん三宅島外の方も大歓迎です。ご応募お待ちしております。

「支援者のつどい」和やかな雰囲気で 絆の大切さ みんなで確認



17人が参加して行われた支援者の集い

隣同士の助け合いを

12月10日、巣鴨の沖縄料理店で、ふるさとネットの総会ののち「支援者のつどい」が行われた。元文化放送防災キャスターの高橋民夫さんの発声による乾杯で始まったつどいでは、参加者一人ひとりが挨拶に立った。この中で参加者は、長期災害からの復興の際に絆が大切であることを確認した。

12月10日、「支援者のつどい」は19時から巣鴨の沖縄料理店「分あじこや」で行われた。司会を務めたのは佐藤就之会長で、冒頭、今年1年の支援に対するお礼の言葉とともに、道半ばである三宅島の長期災害の

復興に向けた更なる協力を呼びかけた。続いて、元文化放送の防災キャスターである高橋民夫さんが乾杯の挨拶に立った。高橋さんは、「支援者のつどい」のような「顔の見える集まりを、長く続けていることはとても大切だ」と話し、熊本地震などの例も挙

「三宅に励まされた」

今回の「支援者のつどい」では、17名の参加者が、つどいの途中で自己紹介とともに、挨拶に

げ、災害時に隣同士、顔の見える者同士が助け合う大切さを説いた。そして、参加者は、隣同士で手を繋ぎ合い、大きな輪をつくってお互いの絆を確認し合った。乾杯ののちは、和気あいあいとした雰囲気の中で、参加者は、沖縄料理の数々や、美味しいお酒に舌鼓を打った。

ご寄付者名

吉田信行様、小澤英明様、光安千久子様、吉島輝雄様、佐藤就之様、板倉美紀子様、栗原未帆様（H 28.9.18～12.9）

皆様のご協力に深く感謝を申し上げます。

○ご寄付のお願い

郵便振替口座

口座番号：

00120-3-545036

口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク

立った。このうち東京都議会議員で民進党の斉藤あつしさんは、ふるさとネットのこれまでの活動に敬意を表すとともに、「三宅島新報」などを通じて島の情報を得るとともに、島民や在京者からの要望に、都として全力で応えたいと熱く語った。また、豊島区スポーツ推進委員協議会の佐藤裕美さんは、そんな神戸の震災から続く長期災害復興の難しさを語るなど、噴火災害にとどまらない、幅広い災害における復興の長期化のもどかしさを語った。さらに、「支援者のつどい」に毎年参加している女優の京町さんは、阪神淡路大震災以降様々な

編集後記

昨年度も無事に「三宅島新報」の発行をお手伝いすることができました。

これも、皆様のご協力の賜物です。いただいたアンケートのご意見を活かすことが出来るよう、今年もできるかぎり努力をしてまいりますので、よろしくお願いいたします。

（DTPA一同）

ことがあったとした上で、それでも折にふれ、「三宅の人たちに励まされている」と話し、高橋氏と同様に、隣同士の助け合いによる復興への努力を呼びかけた。このように、神戸の阪神淡路大震災からの復興に携わったを経験を持つ参加者が多くいたことも印象的である。「支援者のつどい」は、その後も終始和やかな雰囲気が進み、最後に参加者全員で記念撮影をして終了した。